

『人のための革新科学技術』

第 74 回日本放射線技術学会総会学術大会
実行委員長 石田 隆行



Japan Radiology Congress(JRC)2018 の学術大会の一つである第 74 回日本放射線技術学会総会学術大会が、平成 30 年 4 月 12 日(木)から 15 日(日)までの 4 日間、パシフィコ横浜で開催されます。JRC2018 の大会テーマは、英語で「Innovative Science and Humanism in Radiology」、日本語では「夢のような創造科学と人にやさしい放射線医学」となっています。この大会では、医療を飛躍的に進歩させる、まさに夢のような最先端研究の講演が聞けて、臨床現場で活躍する多くの会員の皆様が基礎研究の最前線を知ることができる大会になっています。また、そのような先端的研究の成果は、医療が必要な人のために役立てられるべきであることから、「人にやさしい放射線医療」という語句と共にテーマに掲げ、テーマに沿った多くの企画をいたしました。

ここで、JRC2018 の主な企画を紹介したいと思います。まず、合同開会式に引き続いて行われる合同特別講演は、大会テーマに相応しく、レーザーイオン化質量分析技術の発明で 2002 年にノーベル化学賞を受賞された田中耕一先生による「分析と医用の融合によるヘルスケアへの新展開のために」というタイトルの講演が行われます。ノーベル賞学者の田中先生の研究と医療との融合についてのお話を聞く貴重な機会になります。合同シンポジウム 1「医療被ばく低減に向けての取り組み」では、基調講演として ICRP Chair の Claire Cousins 先生に医療被ばくの最適化のための ICRP の今後の方向性と計画に関してご講演いただいた後、CT、小児医療、IVR、放射線治療のそれぞれの領域における被ばく低減やその方向性についての講演をして頂きます。放射線医学において、被ばく低減は大きな柱となるテーマですので、多くの先生方にご参加頂きたいと思っています。合同シンポジウム 2 では、「本質に迫る研究をしよう！：前臨床研究へのお誘い」というテーマで、様々なイメージングや画像バイオマーカーに関する研究の講演をして頂いた後、招待講演として、NIH(アメリカ国立衛生研究所)の小林久隆先生による近赤外光線免疫療法の開発経緯について、まさに夢のような創造科学の講演をして頂くことになっています。合同シンポジウム 3 では、「放射線診療における Radiomics 研究の現状」というテーマで、放射線医学の各分野を代表する国内外の先生方に、放射線医学の多量の画像・情報を系統的に扱う科学である Radiomics の最先端の研究についてご講演いただきます。そして、今回初めての企画となる合同教育セッションでは、「前立腺癌の診断から治療まで」というテーマで、放射線科医師、診療放射線技師、医学物理士のそれぞれの立場から前立腺癌の診断から治療までを体系的に学ぶことができるプログラムが組まれています。

本学会と医学物理学会との合同特別講演では、Washington University の Sasa Mutic 先生による、AAPM(米国医学物理学会)のタスクグループである TG-132 がまとめた Image registration and fusion algorithms に関するコンセプトとその進歩に関する講演をしていただきます。また、医学物理学会との合同企画として、シンポジウム「RPT 誌に論文を掲載するためのノウハウ教えます」を開催いたします。論文を投稿してから掲載されるまでのノウハウを知る絶好の機会になります。

本学会教育委員会が企画した日本循環器学会とのコラボレーション「循環器領域における放射線技術学の役割～基本的な知識に活かされる最新技術～」では、心臓に焦点をあてて、診断法、治療法、および技術展望についての講演を聞くことができます。

次に、本学会が企画する特別講演 1 では、CT の研究で世界的に有名な University of Erlangen-Nuremberg の Willi A. Kalender 先生に最先端の CT 開発に関する講演をして頂き、特別講演 2 では、University of Washington の Paul Kinahan 先生に、PET による Quantitative imaging の最新技術に関する講演をして頂くことになっています。同時通訳がありますので、多数ご参加ください。

さらに本学会が行うシンポジウムも、1. 「放射線防護とチーム医療の明日」、2. 「モダリティごとの RDSR(Radiation Dose Structure Report)」、3. 「MRI に求める Technical Innovation」という、どれも非常に興味深いテーマでの議論がなされます。

各種委員会・専門部会の企画も、充実した内容の企画が数多くあります。また、実行委員会も、MRI の臨床に役立つ様々な技術、論文査読への対応、そして X 線単純撮影技術の組み立ての基礎など多くの教育的講座を企画したり、社会人のための大学院照会などを企画したりしています。特に、川村義彦先生のご講演「X 線単純撮影技術の組み立ての基礎」では、良い X 線単純撮影のための基礎を論理的にお話して頂けますので、多数ご参加下さい。さらに、「英語発表支援セミナー」は、専門部会毎に英語発表のコツがつかめる講演が行われます。今年の学生セッション「Next Generation Session」は、学生優秀演題(上位 8 演題)にポスタープレゼンテーションをして頂き、参加した皆様によって最優秀演題を決定し表彰します。

本来なら全ての企画を紹介すべきですが、限られた紙面ではそれかかないません。皆様には、学会当日、実際にご参加頂ければと思います。

本学術大会では、口述発表の約 52% が英語での発表を予定しています。ついに、学会が目標としていた 50% を上回りました。発表者の皆様に心から感謝申し上げます。昨年と同様に発表時に「発表者用メモ表示(発表者ツールに相当する機能)」を使用することができますので、英語発表時などに必要に応じてご活用ください。海外からも招待演者、一般発表演者をはじめとする、多くの方々にご参加頂き、国際化が進んだ学会を肌で感じて頂ければと思います。

最後になりましたが、本大会を開催するにあたって、大会開催委員会、プログラム委員会をはじめとする各種委員会・専門部会、演題審査員、学会事務局、Japan Medical Imaging and Radiological Systems Industries Association(JIRA)、そして JRC 事務局の皆様のお力添えに対して、実行委員を代表して心より厚く御礼申し上げます。実行委員一同、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。